

第4章 小松島市の公共交通における課題解決の方向性と目指すべき将来像

4.1 小松島市の公共交通の課題の整理

(1) 地域公共交通の現状に基づく課題

鉄道・路線バスその他の地域公共交通の現状から見いだされる課題としては、次のようなことが挙げられます。

- ① 今後市の人口が減少していく中においても、市民の移動の足を確保するため現在ある鉄道や路線バスをしっかりと維持していく必要がある。
- ② 施設分布に基づく運転免許を持たない高校生等や高齢者の移動ニーズに対して、鉄道・路線バスおよびその他の交通機関のサービス実態が必ずしも的確なサービスを提供していない可能性がある。
- ③ 鉄道とバスを乗り継いだ有効な利用が可能な環境にあるとは言えない。
- ④ 幹線路線バスの市内間利用が相対的に少なく、移譲路線も空席の多い不経済な実態に対し、サービス水準の向上を図るとともに、潜在需要に対応するために利便性をPRしていく必要がある。

(2) 市民アンケートにおける満足度および優先度評価からみたバス交通の課題

項目ごとの検討の結果、路線バスにおける課題として考えられる事項は以下のとおりです。

- ① 運行の時間帯（始発や終発の時刻）
- ② 運行時刻表・路線図等の案内・掲示や、運行状況などの提供情報のわかりやすさ
- ③ 鉄道とバス、バスとバスの乗り継ぎの容易さ
- ④ 車いすなどでの利用のしやすさ
- ⑤ バス停留所の設備や、バス停までの距離
- ⑥ 運行の本数

(3) 市政の現状（上位・関連計画）による小松島市の公共交通の課題

路線バスの課題対応のほか、上位・関連計画及び国の政策による小松島市の公共交通の課題としては次のように整理することができます。

- ① 人口減少・少子高齢化社会に対応するための「集約・連携型都市構造」の構築を目指すうえで、各地域が交通ネットワークで有機的に連携することが必要。
- ② 健康で歩いて暮らせるまちづくりや、多様な交通手段で移動できる安全・安心な都市空間の形成、さらには環境負荷の少ない低炭素社会・循環型社会の形成に資するような公共交通ネットワークであることが必要。
- ③ 観光などで小松島市を初めて訪れる人にとってもわかりやすく、利用しやすい公共交通サービスを提供していくことが必要。
- ④ 小松島市を先頭に、関係者・住民の協働により、持続可能な地域公共交通ネットワーク・サービスを再構築することが必要。

4.2 課題解決に向けた方向性

(1) 地域公共交通の果たすべき役割と現状に基づく課題に対応して

現在の小松島市の公共交通で都市間交通の役割を果たしているのは鉄道と幹線路線を走る路線バスです。これらを市の動脈的路線と位置づけ、今後も減便や撤退とならないよう、しっかりと維持していくことが必要となります。その上でこれらを補完する市中心部と市内の各地を結ぶバス路線との連携を高めることや、各公共公益施設に対するアクセスのよさをPRしていくことにより、それぞれの公共交通機関の利用率の向上に取り組んでいくことが重要です。

また、市内に小規模に点在する公共交通空白地域については、解消に向けた取り組みを進めていくことが必要です。

(2) 市民アンケートにおける満足度および優先度評価からみたバス交通の課題に対応して

市民アンケートにおいてはバス運行に係る時間帯や、案内のわかりやすさ、バス停の設備についてなど、実際に利用するにあたっての利便性に関わる項目が課題として挙げられています。これらの課題を解決していくためには、事業者と連携しダイヤ・ルートの総合的な見直しや、設備の改善、また利用する方の目線に立った表示や案内の改善など公共交通全体としての利便性の向上を図ることにより、利用しやすい公共交通ネットワークの形成を図っていきます。

(3) 上位・関連計画による小松島市の公共交通の課題に対応して

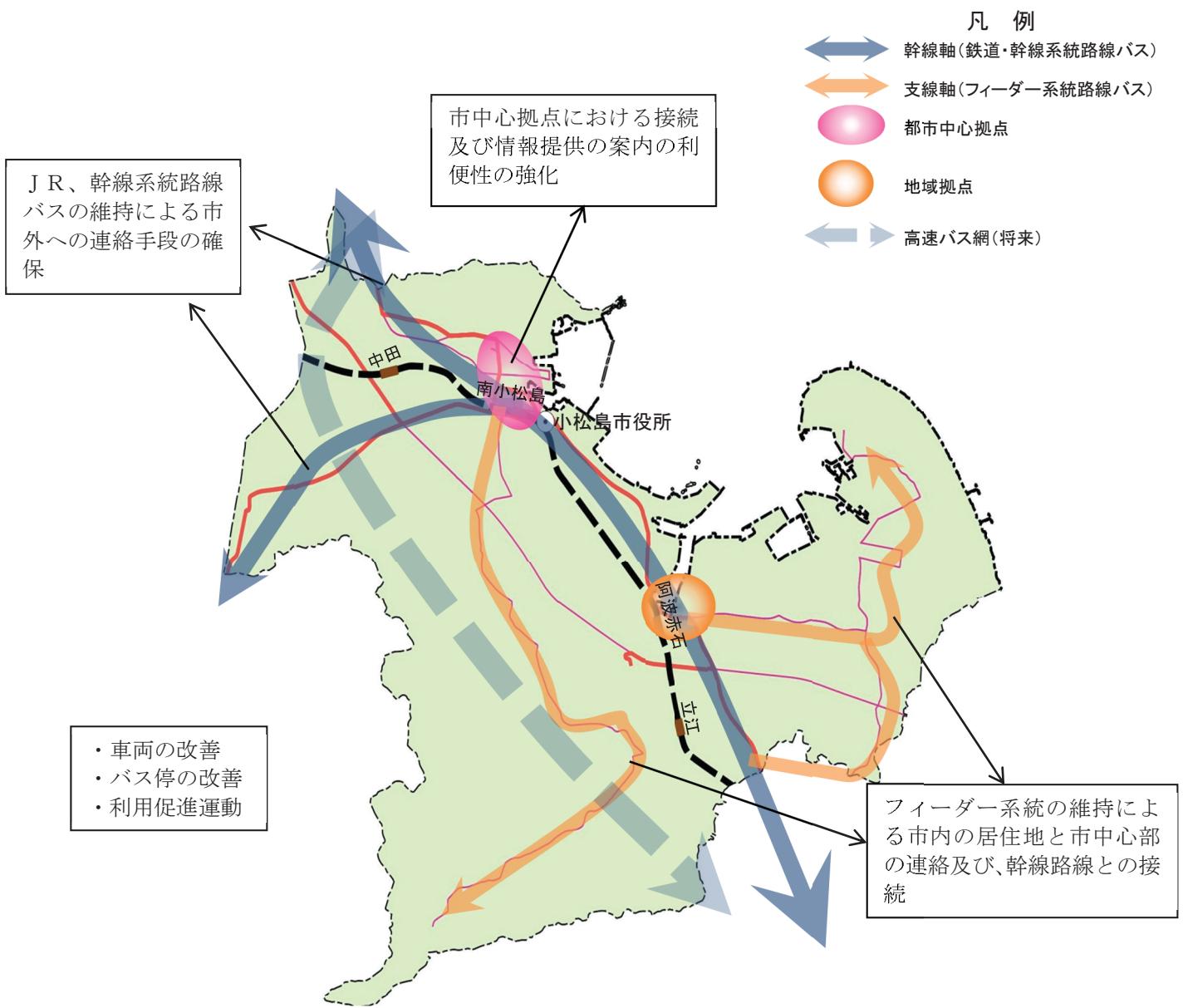
「都市機能がコンパクトに集約され、各地域と公共交通ネットワークで結ばれた都市」の実現に向け、都市中心部における公共交通としての拠点づくり、また、健康で歩いて暮らせる街づくりのために欠かせない交通環境におけるバリアフリー・ユニバーサルデザイン化に取り組むとともに、観光客の方など初めて小松島市内で公共交通を使う方にとっても利用しやすいと思えるよう観光地などの案内やバス停での表示の充実について、市を取り巻く交通環境の変化を見据え、市・事業者・公共交通利用者など関係者が知恵を出し合い、公共交通サービスの維持・向上に取り組んでいきます。

4.3 小松島市において目指すべき公共交通の将来像

小松島市地域公共交通網形成計画として目指すべき将来像について、路線バスの課題、上位・関連計画及び国の政策による小松島市の公共交通の課題を踏まえ、以下のように設定します。

みんなでつくる、「まち」「ひと」を結ぶ小松島の公共交通

- ・多くの人にとっての暮らしやすさの向上に資すること
 - －利用満足度の向上
 - －通勤・通学利便性の向上
 - －高齢者の外出支援
- ・都市機能がコンパクトに集約された中での連携のための手段として活用できること
 - －住民の利用しやすい施設を拠点にネットワークを構築
 - －幹線交通との連携による広域性の確保
- ・まちづくりなど多様な施策と連携し、みんなで協働して交通に関する施策を推進
 - －小松島市が中心となり住民の協力を含む関係者と連携
 - －健康で歩いて暮らせるまちづくりと連携



地域公共交通網形成計画による公共交通の将来像図